

未来をつくる子どもの夢を応援！日本最大級の創作絵画コンクール 第 15 回「ドコモ未来ミュージアム」作品募集開始

【募集期間 2016 年 6 月 1 日（水）～9 月 9 日（金）／表彰式：12 月 10 日（土）】
ドコモ未来ミュージアム ホームページ <http://www.docomo-mirai.com/>

株式会社 NTT ドコモ（以下ドコモ）は、**全国の子どもたち（3 歳以上中学生以下）を対象にした、日本最大級の創作絵画コンクール『第 15 回「ドコモ未来ミュージアム」～みんなの夢が、未来をつれてくる。～』の創作絵画作品を 2016 年 6 月 1 日（水）～9 月 9 日（金）まで募集します。**

「ドコモ未来ミュージアム」は、未来をつくる子どもの夢を応援するため、ドコモが 2002 年から毎年開催している創作絵画コンクールです。「僕たち私たちの未来の暮らし」をテーマに、子どもたちが将来「こうなってほしい」と思うことや「こうしたい」と想像する未来の世界や希望を自由な発想で描いてもらいます。



昨年の応募数は 128,138 作品で、これまでの応募総数が 100 万点を超え、子どもたちの夢とともにコンクールも成長してきました。“未来を描く”ことが、子どもたちの創造力や思考力を伸ばすことにもつながり、「ドコモ未来ミュージアム」は一つの学び場としても浸透しています。回を重ねるごとに「未来」の表現も多様化し、近年においては、子どもたち自身の身近な生活から未来を描く作品が多くなっています。（*別添参考資料をご参照ください。）

今回も昨年に引き続き、最優秀作品には文部科学大臣賞が贈られるほか、各都道府県から 1 団体が選ばれる学校賞もご用意しております。作品をご応募いただいた全員に、「オリジナルドコモダケノート」をプレゼントします。

ぜひ今年も、多くの子どもたちにご応募をいただきたく、ご案内いたします。告知ご協力・ご取材のほど何卒よろしくお願いいたします。なお、第 15 回「ドコモ未来ミュージアム」の詳細は別紙の通りです。

<一般の方のお問い合わせ先>

ドコモ未来ミュージアム事務局 <http://www.docomo-mirai.com/>（スマートフォン・パソコンから）

フリーダイヤル 0120-353-648（土日祝日を除く午前 10：00～午後 6：00）※ケータイ、PHS からもご利用になれます。

[別紙]

第15回「ドコモ未来ミュージアム」概要

■応募テーマ

「僕たち私たちの未来の暮らし」 ※本人が創作したオリジナル作品に限ります。

■作品送付先

〒105-0004 東京都港区新橋 2-16-1 7F ドコモ未来ミュージアム事務局

■応募期間

2016年6月1日(水)～9月9日(金) ※締切日消印有効

■応募対象

日本国内にお住まい、あるいは在学中の3歳以上の未就学児童から中学生(国籍不問)

■応募部門

【**絵画部門**】未就学児童の部(幼稚園・保育園児を含む) / 小学校1～2年生の部 / 小学校3～4年生の部 / 小学校5～6年生の部 / 中学生の部

【**デジタル部門**】年齢別審査なし

■審査員

奥村 高明(聖徳大学児童学部長)、城戸 真亜子(洋画家)、南雲 治嘉(デジタルハリウッド大学教授)、
文部科学省代表者、NTTドコモ代表者 [順不同・敬称略]

■用紙サイズ・画材

通常はがきサイズ(100mm×148mm)以上、画用紙四つ切りサイズ(540mm×380mm)以下。

画材は自由。

■応募方法詳細

【絵画部門】

- 作品の裏面に「応募シート」を貼り付け、作品送付先まで郵送。「応募シート」は、「ドコモ未来ミュージアム」のパソコン版ホームページからダウンロードが可能。
- ダウンロードできない場合は、A4サイズの用紙に①応募部門、②作品名(作品説明がある場合は100字以内)、③郵便番号、④住所、⑤氏名、⑥年齢、⑦電話番号、⑧FAX番号、⑨在籍する学校名・学年を明記して代用。

【デジタル部門】

- パソコン版ホームページから、応募可能。詳しくはパソコン版ホームページ参照。
- 郵送の場合は、作品を出力(540mm×380mm以内)して裏面に「応募シート」を貼り付けるか、CDまたはDVDに作品データ(JPEG、GIF、PNG、BMPのいずれか)を記録し、データを応募者名で保存して、「応募シート」を同封し作品送付先まで郵送。

※絵画部門、デジタル部門ともに、応募者1人につき複数の作品応募が可能。応募作品は返却されません。

■賞品一覧

賞名	ドコモ未来大賞ゴールド	ドコモ未来大賞シルバー	審査員特別賞	入選	学校賞	
副賞	賞状	賞状	賞状	賞状	賞状	
	旅行券5万円分 自作品入りオリジナル スケッチブック	旅行券3万円分 自作品入りオリジナル スケッチブック	図書カード1万円分 自作品入りオリジナル スケッチブック	自作品入りオリジナル スケッチブック	学校備品2万円分	
受賞者特典	表彰式および東京デイズニースーツ®ご招待(ご同行者1名含む)					
絵画部門	右記6名の中から1名を 文部科学大臣賞として 選出	未就学児童の部	1名	1名	4名	150名
		小学校1～2年生の部	1名	1名		
		小学校3～4年生の部	1名	1名		
		小学校5～6年生の部	1名	1名		
		中学生の部	1名	1名		
デジタル部門		1名	1名	1名	5名	
47団体 各都道府県 から1団体						

■参加賞 オリジナルドコモダケノート

応募者全員に「オリジナルドコモダケノート」をプレゼント（※画像はイメージです）。



■受賞者特典

上位入賞者 17 名（絵画・デジタル部門のゴールド、シルバー、審査員特別賞）と、入賞者のご同行者（各 1 名）を、東京ディズニーリゾート® へご招待。

■結果発表

新聞紙上（掲載紙未定）および「ドコモ未来ミュージアム」ホームページで発表予定。
※発表時期については、決定次第「ドコモ未来ミュージアム」ホームページでご案内します。

■表彰式

2016 年 12 月 10 日（土）、東京にて上位入賞者 17 名を招いて実施予定。

■主催 NTT ドコモ

■後援

文部科学省/全国連合小学校長会/全日本中学校長会/日本 PTA 全国協議会/
朝日新聞社/毎日新聞社/読売新聞社/日本経済新聞社/産経新聞社/北海道新聞社/東京新聞/北陸中日新聞/
中日新聞社/東奥日報社/デーリー東北新聞社/岩手日報社/岩手日日新聞社/秋田魁新報社/山形新聞社/
河北新報社/福島民報社/福島民友新聞社/下野新聞社/上毛新聞社/山梨日日新聞社/信濃毎日新聞社/
新潟日報社/静岡新聞社/北國新聞社/富山新聞社/北日本新聞社/福井新聞社/京都新聞/神戸新聞社/
中国新聞社/山陽新聞社/山陰中央新報社/新日本海新聞社/山口新聞社/四国新聞社/愛媛新聞社/高知新聞社/
徳島新聞社/西日本新聞社/佐賀新聞社/長崎新聞社/熊本日日新聞社/大分合同新聞社/宮崎日日新聞社/
南日本新聞社/琉球新報社/沖縄タイムス社/朝日学生新聞社

■協力 スマートスクール

<p style="text-align: center;">文部科学大臣賞</p> 		
<p>絵画部門 小学校 3～4 年生の部 とざわ ここ 斗沢 胡子さん (8 歳) 東京都清瀬市 「薬の花びら」</p>	<p>絵画部門 未就学児童の部 レプエルタス ラファエルさん (6 歳) 沖縄県中頭郡 「恐竜の山」</p>	<p>絵画部門 小学校 1～2 年生の部 やなだ なつみ 梁田 菜摘さん (7 歳) 千葉県市川市 「かれたひまわりのいえ」</p>
		
<p>絵画部門 小学校 5～6 年生の部 おくむら やこう 奥村 夜香さん (11 歳) 滋賀県東近江市 「銀河牧場」</p>	<p>絵画部門 中学生の部 やち あさひ 谷内 朝日さん (13 歳) 兵庫県神戸市 「ハートコンタクトレンズ」</p>	<p>デジタル部門 やまもと こうき 山本 晃毅さん (9 歳) 栃木県下都賀郡 「世界一高い山のひみつきち」</p>

■ 第14回審査員コメント (一部抜粋)

聖徳大学 児童学部長 奥村 高明氏

毎年このコンクールの審査を楽しみにしています。みなさんの作品に会いたくなります。なぜでしょう。一つは、みなさんの作品から未来を見ることが出来るからです。未来には、今、思いもつかない仕事があるはずで。現在、人がしていることを機械やコンピュータが行っているはずで。それを柔らかな想像力で創り出しているのが皆さんの作品です。いいかえれば「ドコモ未来ミュージアム」は、「未来が見える美術館」「未来が分かる博物館」なのです。

もう一つは、みなさんの作品から現在が分かるからです。多くの作品に、みなさんの願いや困っていることが描かれています。「いろんな動物とコミュニケーションしたい」「亡くなったおじいちゃんとしゃべりたい」。「そうか、それが今の子どもたちが直面している問題なんだ」。いいかえれば「ドコモ未来ミュージアム」は、子どもたちが今をどう感じているか、解決していくべき課題は何かが分かる場所なのです。

デジタルハリウッド大学教授 南雲 治嘉氏

沢山の作品から分かることがあります。未来を見つめる目はかわいらしかったり、真剣であったりしていることです。それはアナログの作品とデジタルの作品に関わらず共通しています。

デジタル作品のコンクールでは先駆的な役割を果たしているドコモ未来ミュージアムですが、そのレベルが着実にアップしている度合いを測ることができます。それがこの目で見られることは喜びです。

絵は人を笑顔にし、感動させることができます。これからも、絵を描き続けて下さい。絵が描ける生活は幸せです。いつまでもあなたのキラキラしている目を大切にしてください。